

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
幼児の造形表現Ⅱ (ななみ書房)	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	保育の計画と評価	担当教員	崎枝 朝子
科目コード	330001	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

#### 授業概要

テキスト「教育・保育カリキュラム論」＜中央法規＞による

1. 保育における計画の意義
2. 日本におけるカリキュラム基礎理論
3. 子ども理解に基づく保育の環境
4. 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型こども園教育保育要領の性格と位置づけ・改定内容
5. 幼稚園の教育課程の編成の基本原理と方法
6. 保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成の基本原理と方法
7. 幼稚園の指導計画の作成
8. 保育所・認定こども園の指導計画の作成
9. 保育の評価
10. 指導計画の書き方
11. 0歳児の指導計画
12. 1歳以上3歳未満児の指導計画
13. 3歳児・4歳児の指導計画
14. 5歳児の指導計画
15. 小学校との接続

#### 授業修了時の達成目標

- 子どもの「主体性」が尊重されるための「計画性のある保育」の必要性を学び、保育の全体的な計画の作成の基本を押さえ専門職として求められる「省察」する力の必要性を学ぶ。
  - 「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」等の変遷について理解しカリキュラムのあり方を理解する。
  - 「アクティブラーニング」の視点から「PDCA サイクル」で保育を探り、教育・保育の質向上について学ぶ。
  - 保育所・幼稚園・認定こども園等における指導計画の作成において、その必要性和留意事項について事例や実績を交えながら学ぶ。
  - 0歳児・1歳以上3歳未満児・3歳以上児の指導計画を作成するにあたり、発達の理解に加え子どもの育つ環境を専門的な立場から見据える多角的視点を学ぶ。
  - 「子どもの育ちの保障」のために、小学校との接続の重要性を知り、その方法・実態について理解を深める。
- ※自身の持っている「保育理念」「めざす子ども像」を達成し実現するために必要な専門的保育知識を備え深めていく。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ 教育・保育カリキュラム論	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	社会的養護Ⅱ	担当教員	比嘉 大輔
科目コード	(スクーリング)330002	授業形態	演習
単位数	1 単位	必修・選択	必修
コマ数	10 コマ	時間数	15 時間

授業概要 (スクーリング)

- 1) 子どもの権利擁護
- 2) 社会的養護における子どもの理解
- 3) 社会的養護の内容①日常生活支援
- 4) 社会的養護の内容②心理的支援
- 5) 社会的養護の内容③自立支援
- 6) 施設養護の生活特性および実際①乳児院等
- 7) 施設養護の生活特性および実際②障害児施設等
- 8) 家庭養護の生活特性および実際
- 9) アセスメントと個別支援計画の作成
- 10) 記録および自己評価
- 11) 社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践
- 12) 社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践
- 13) 社会的養護におけるソーシャルワーク (知識・技術とその応用)
- 14) 社会的養護における家庭支援
- 15) 今後の社会的養護の課題と展望

授業修了時の達成目標

保育士として、社会的養護 (家庭養育を含め) について以下を目標とする

- 1.社会的養護の基礎的な内容について理解し、考察する
  - 2.社会的養護の実際について理解する、考察する
  - 3.子どもと家族への多様な支援を理解する、考察する
- 子どもへのあらゆる支援のあり方を理解する、考察する

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ 社会的養護Ⅱ (中央法規出版)	受講態度	30%	
	課題	20%	
	単位認定試験	50%	

科目名	子育て支援	担当教員	真榮城 かの子
科目コード	330003	授業形態	面接
単位数	1	必修・選択	必修

#### 授業概要

保育者として必要な子育ての知識や保護者の子育て上の心配や悩みの解決への支援の仕方、虐待の予防、保護者支援のために必要な保育技術や制度、政策、専門機関との連携等、子どもの幸せを念頭に置き、保育者として理解しておくことを演習などを通して学ぶ。

#### 授業修了時の達成目標

- ・ 子育て支援の意義と原則について理解し、保育者の使命感や倫理観を確かなものにする。
- ・ 保育士が保護者に対して行う専門性を背景とした保育相談支援について、その特性と展開について理解する。
- ・ 子育て支援の内容と方法及び技術を実践事例等を通して具体的に理解する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ 子育て支援	スクーリング	100.0%	

科目名	保育実践演習	担当教員	大城 克也
科目コード	330004/330005	授業形態	印刷/演習
単位数	2	必修・選択	必修

#### 授業概要

1. これまでの学修を活かし、園外保育の計画とシミュレーション。(スクーリング)
  - ① 園外保育を想定し、保育所保育指針を活用し計画を立てる。
  - ② 各役割分担をし、それぞれの内容を計画する。
  - ③ 実際に園外保育の実施を行う。
  - ④ 振り返りを実施する。
2. 自己分析を行い具体的な目標の設置。(レポート)
  - ① 保育における自分の能力を抽出する。
  - ② 能力を保育所保育指針の視点で考える。
  - ③ 目標とする保育士像を具体的に上げる。
3. 子どもの遊びについて考える (試験)  
保育者としての役割とは (試験)

#### 授業修了時の達成目標

1. 保育所保育指針を読み込み、保育士の役割、それぞれの課題の視点から保育のねらい及び内容を理解する。
2. 保育の目的を理解し、計画からシミュレーションを通して実践力を身につける。
3. これまでの自分の学修や経験を振り返り、具体的な目標を立て今後の質向上に繋げる。
4. 事例等を通して、保育における自分の思いをしっかりと持つ意識をつける。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
保育・教職実践演習テキストノート	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	
	スクーリング	100.0%	

科目名	こどもの健康と安全	担当教員	知念 菜穂子
科目コード	330015	授業形態	面接
単位数	1	必修・選択	必修

#### 授業概要

1. 子供の健康と保育の環境
2. 子供の保健に関する個別対応と集団全体の健康
3. 衛生管理
4. 事故防止及び安全対策
5. 災害への備えと危機管理
6. 体調不良や傷害が発生した場合の対応
7. 救急処置及び救急蘇生法
8. 感染症の集団発生と予防、対応
9. 保育における保健的対応の基本的考え方
10. 3歳児未満児への適切な対応
11. 個別的な配慮を必要とするこどもへの対応
12. 障害のある子どもへの適切な対応
13. 職員間の連携・協働と組織的取り組み
14. 保育における保健計画および評価
15. 子どもを中心とした家庭・専門機関・地域との連携

#### 授業修了時の達成目標

○保育者として、誕生から大人になるまでの長期的な視野をもって、子ども自身が健康なところと身体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を培うこと、子ども自身が自分の健康を守ることができるように働きかけて行くことができること。

1.十分に養護の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で子供の様々な欲求を満たし、生命の保持及び情緒の安定を図ることができる。

2.健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培うことができる。

3.子供の保健に関する知識を学び、保育の中で実践していくことができる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ こどもの健康と安全 (中央法規出版)	スクーリング	100.0%	

科目名	地域福祉の理論と方法	担当教員	大庭 荒
科目コード	330006	授業形態	印刷
単位数	2 単位	必修・選択	選択

授業概要 (スクーリング)

【科目のねらい】

2000 年、社会福祉事業法が社会福祉法として法律名称が変更され、第 1 条の法の目的においては、「地域における社会福祉（地域福祉）の推進を図る」と明確化された。個人の尊厳、地域自立支援、支え合う地域づくりの総体となる地域福祉の意義を理解する。

1. 地域福祉システムのキーワード

共生社会、参加型地域福祉、協働型地域福祉、バリアフリー

2. コミュニティと地域福祉

地域社会の生活課題、生活圏域と福祉圏域、まちづくり

3. 地域福祉の主体形成と住民参加

福祉教育、地域協働、住民参加の形態

4. 地域福祉のあゆみ

戦前～戦後の社会事業、地域福祉の理論、地域福祉の対象

5. 地域福祉をとりまく資源、財源

社会資源、財源、地域福祉サービスの経営、地域福祉へのサポート

6. 地域福祉を推進する専門職と組織

ニーズの捉え方、コミュニティソーシャルワーク、ソーシャルサポートネットワーク、社会福祉協議会  
民生委員・児童委員、NPO・ボランティア、当事者組織

7. 地域福祉計画の方法と展開

地域福祉計画の本質、住民参加、自治体計画、計画の評価

8. 諸外国の地域福祉

9. 地域福祉の展望

地域福祉の 3 つのつながり、5 つの C、地域包括ケアシステム

授業終了時の達成目標

- 地域の問題・課題を把握し視野の広い考察力を習得する。
- 地域福祉の対象となる地域住民が抱える生活課題と向き合う意識を高める。
- 地域福祉理念の実現と社会保障制度を関連づけて説明できる。
- 地域福祉を推進する組織について説明できる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
地域福祉の理論と方法 第 2 版 (ミネルヴァ書房)	試験	100%	
	レポート	100%	

科目名	福祉ボランティア実践	担当教員	大山 望
科目コード	330008	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

#### 授業概要

1. ボランティア活動
  - (1) ボランティア活動
  - (2) ボランティア活動の範囲
  - (3) ボランティア活動の推進
2. ボランティア学習
  - (1) 福祉教育とボランティア学習の関係
  - (2) ボランティア活動の学習方法・学習評価
3. ボランティア実践
  - (1) 地域分野
  - (2) 高齢者分野
  - (3) 障害者分野
  - (4) 児童分野
  - (5) 国際貢献分野
4. ワークブック
  - (1) 記録 (2) 評価 (3) スーパービジョン (4) 研修

#### 授業修了時の達成目標

ボランティアの基盤となるボランティア活動、市民参加や市民的自由、ボランティアの理念について理解する。

1. ボランティア活動を理解し、ボランティア活動の理念と役割を説明できる。
2. 社会福祉分野、保育現場、地域等でのボランティア活動の実践を通じ、ボランティアの効果の説明ができる。
3. ボランティア活動を通じ、福祉サービス利用児・者とのコミュニケーションを図ることができる。
4. 自身が所属する組織（児童福祉施設等）にてボランティアコーディネーターの役割を担うことができるようになる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
ボランティアのすすめー基礎から実践まで	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	保育ソーシャルワーク論	担当教員	宮田 英治
科目コード	330009	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

#### 授業概要

##### 【科目のねらい】

保育者は子どもの成長・発達への支援だけでなく、保護者の子育て支援を担う専門職といえる。ソーシャルワークの視点を学び、子どもの保育や保護者の相談支援に活かす。

1. 保護者支援とは何かを考える
2. 保護者との適切なかかわり
3. 保護者の心に寄り添う
4. 保育者のソーシャルワーク実践
5. 保育士に必要なコミュニケーション
6. 特別な支援が必要な子どもの保護者支援

保育所保育指針から保護者支援・子育て支援を読み解く

#### 授業修了時の達成目標

- ソーシャルワークの役割について説明できる。
- 保護者と信頼関係の構築をすることができる。
- 保育士に必要なコミュニケーションスキルを身に着ける。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
保育士・幼稚園教諭のための保護者支援~保育ソーシャルワークで学ぶ相談支援【新版】（これからの保育）	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	心理学理論と心理学支援	担当教員	赤嶺 遼太郎
科目コード	330007	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

#### 授業概要

人間は複雑な存在である。これは心理学が確認できた最大の事実である（東江平之，1996）。現代の心理学は、人間とは何か、という問いに答えることを中心課題とし、人間の性質や体と心の仕組みを明らかにしてきた。心理学を初めて学ぶ人は、心理学研究で明らかにされてきた心のメカニズムや成り立ちについて学ぶと同時に、まず自分自身について理解を深めることになる。また、対人支援職に就く者は、自分自身の理解とともに、支援される相手を理解しようとする態度を持つことが重要な課題となる。

現代心理学は、人を理解することについてどのような考え方を提供するだろうか。その内容は教科書の各章に沿って理解しやすいように紹介されている。たくさんある専門用語も分かりやすく解説されているので、これらを自分の生活に当てはめながら理解するようにしてほしい。レポート課題が与えられるが、レポートの作成は教科書の知識だけでは不十分と思われるので参考書に挙げている書籍も参照して作成するとより理解が深まる。

#### 授業修了時の達成目標

人の行動やモノの見方、考え方、感情の動きについての心理学的な理解の仕方を、自分に引きつけて「ああ、こういうことか」と分かった体験を得られるようにしてほしい。そうすることで、行動する自分、考える自分、感情的になっている自分を客観的に見つめる別の自分があることに気づくだろう。そのような客観的な自分に気づくことで、支援者として相手にしてあげようと思っていることが相手に対して本当に良いことなのかどうか、「してあげたい」「助けてあげたい」という思いが、自分の中のどのような心の動きに左右されているのかについて考えることが出来るようになる。そうすることで、相手が望まない独りよがりな支援や押しつけの支援行動をとらないように自分をコントロールでき、相手に害を与えない安全で安心な多くの人にとって納得できる支援を提供することが出来るだろう。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
心理学理論と心理学支援（第2版）	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	発達障害児論	担当教員	仲間 優子
科目コード	330010	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

#### 授業概要

##### 【学習の目的・ねらい】

幼児期から児童期にかけての発達とその障害について理解を深める。

乳幼児期から青年期の各時期における障害の特性や支援の在り方について理解し、支援方法の基礎的な知識について学習する。

- 1 乳幼児期の発達課題と障害特性
- 2 障害児保育の課題
- 3 障害の特徴と保育の実際
  - III 知的障害の特徴と保育での支援
  - V 注意欠如・多動性障害の特徴と保育での支援
- 4 障害児保育の体制づくり
  - VIII インクルーシブ保育とは
  - IX 保育所・幼稚園での支援体制
- 5 TEACCH(ティーチ)プログラム

#### 授業修了時の達成目標

幼児期から青年期にかけての発達の特徴について理解を深める

発達障害や軽度知的障害の特性を知り、その特性を踏まえた支援体制について理解する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
発達障害のある子のサポートブック	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	保育の手話	担当教員	新里 武太
科目コード	330011	授業形態	面接
単位数	1	必修・選択	必修

#### 授業概要

##### 1日目

- ①聴覚障害の基礎知識 1 (聴覚障害とは、言葉の獲得について)
- ②聴覚障害の基礎知識 2 (聴覚障害の種類、難聴者、中途失聴者、ろう者の言葉について)
- ③手話表現 1 (指文字・あいさつ・自己紹介・保育時に使えるような手話等)
- ④手話表現 2 (簡単な文章の表現等)
- ⑤手話表現 3 (名前の表現方法)

##### 2日目

- ①前日の復習や質問への対応
- ②手話ゲームや聴覚障害があっても参加出来るゲームを楽しむ
- ③手話ソングを表現してみる 1
- ④手話ソングを表現してみる 2
- ④まとめ

#### 授業修了時の達成目標

聴覚障害を理解する。

手話で自己紹介とあいさつ、簡単な文章の表現を行うことができる。

楽しく手話ソングや手話を使ったゲームをする事ができる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
手話ソングブック	スクーリング	100.0%	

科目名	楽しいリトミック	担当教員	奥原 友紀乃
科目コード	330012	授業形態	実技
単位数	1	必修・選択	必修

#### 授業概要

エミール・ジャック＝ダルクローズが創案した音楽を使った教育法「リトミック」の3つの柱（下記○）を体験しながら幼児教育への繋がりを学ぶ。保育士自身が体験を重ねることから感じる事、考える事、想像すること、創造していく楽しさを見つけ出し、表現したいという気持ちなどを育む。

- リズム運動・・・全身を使って音楽を動きで表現する。
- ソルフェージュ・・・音楽を聴く耳を育てる。また、歌うこと(声、楽器など)を重視する。
- 即興・・・・・・・・・・ピアノだけでなく、声や打楽器、身体の動きを使う。

1日目	2日目	3日目	4日目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リトミック講座・実技</li> <li>・基本の動き(教科書より) →ビート、拍、指揮、 その他</li> <li>・ピアノ演奏の体験</li> <li>・確認テスト(講座・動き)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リトミック体験</li> <li>・DVD(授業者実践より) 「心と身体」について</li> <li>・動きからリズム譜へ</li> <li>・動きの表現方法</li> <li>・確認テスト(講座・動き)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リトミック体験</li> <li>・DVD 実践より(プラス ティック・アニメについて)</li> <li>・グループ活動 (指導案作成→発表等) →確認テストとする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リトミック体験</li> <li>・絵本を使って またはお話作り (個人、グループ)</li> <li>・確認テスト(創作及び これまでのまとめ)</li> </ul>

※1～4日目それぞれ必ず確認テストを行う(内容はその日の授業から課題が出る)。

※1～4日目の内容は全て関連させながら進めるため、資料等は毎時持参する事とする。

(特に3日目の指導案作成時や、4日目のまとめにおいて必要である。)

#### 授業修了時の達成目標

保育士自身が、リトミックを体験したことから表現することへの興味を持ち、保育の現場に応じての指導案作成や実践が出来るようにする。また、リトミックの本質を学ぶ上で、体験を蓄積する大切さ、学び続ける大切さに気づかせたいことや、何より自身が「楽しかった」と思える体験をさせたい。リトミックの内容が、幼児教育と繋がり、幼児との関わりの中で楽しんだり、幼児の表現したい(動きや内面)という気持ちを育める保育士として育成する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
教科書○1～5歳のかんたんリトミック(ナツメ社) 担当講師が参考にする書等 ・『リズムと音楽と教育』エミール・ジャック＝ダルクローズ著 2003年(全音楽譜出版社) ・『こちら心の音楽教室』酒井徹著(マイクロコスモス) ・『窓ぎわのトットちゃん』黒柳徹子著(講談社文庫) ・『クラシックの時間ですよ!』青島広志著(Gakken)CD付 ・『改訂ポケットいっぱいのおうた』(教育芸術社)	スクーリング	100.0%	動きやすい 服装で受講 してくださ い。
	(課題・実技試験)	(50%)	
	(指導案作成・模擬授業)	(25%)	
	(授業態度)	(25%)	

科目名	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	担当教員	Ⅱ大城克也・Ⅲ比嘉大輔
科目コード	330013	授業形態	実習
単位数	2単位	必修・選択	必修
実習日数	11日間		

授業概要 (実習)

〔保育実習Ⅱ〕

【実習の段階】

1. 観察実習(実習初日)
2. 参加実習(実習2～4日目)
3. 部分実習・責任実習(実習5日目～10日目～)

【実習の内容】

1. 保育所(園)のデイリープログラムを実践し、保育の技術を習得する。
2. 乳幼児の発達段階を理解するとともに、個人差及び発達の遅れた乳幼児への個別的配慮について学ぶ。
3. 部分実習や、責任実習の指導計画を立案し、積極的に実践する。
4. 保護者との連携、子育て支援について具体的な実践方法を学ぶ。
5. 地域社会とのかかわりや、連携の大切さを理解し、その方法について学ぶ。
6. 保育者に求められる資質、能力、技術を理解し、自己の課題を明確にする。
7. 保育者としての職業倫理を深める。
8. こどもの最善の利益について考え、その配慮について学ぶ。

〔保育実習Ⅲ〕

- ※ 「保育実習Ⅲ」を履修するためには、必ず「保育実習Ⅲ事前指導」を履修しなければならない。
- ※ 実習を希望する社会福祉施設より内諾を得て、その旨学校に報告し、「保育実習Ⅲ」を行うこと。
- ※ 「保育実習Ⅲ」修了後は、直ちに実習日誌を実習先へ提出すること
- ※ 「保育実習Ⅲ」修了後は、必ず「保育実習Ⅲ事後指導」を履修しなければならない。

保育実習Ⅲの目的と実習修了時の達成目標は以下の通りである。

保育実習Ⅲの目的	実習修了時の達成目標
職場を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人の概要、組織、理念、利用者（児）や関係者等について理解する</li> <li>・職場の一日の流れを理解し、積極的に関わる</li> <li>・利用者（児）および関係者等のニーズを理解する</li> <li>・リスクマネジメント等について理解する</li> </ul> など
職種を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような職種が働いているのかについて理解する</li> <li>・利用者を中心としてどのような職種が関わっているのか理解する</li> <li>・保育士はどのような業務、役割があるのか理解する</li> </ul> など
保育を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者としての職業倫理を理解する</li> <li>・利用者（児）の「wellbeing：最善の利益」について考える</li> <li>・保育者として、現場ではどのようなスキルが展開されているのか理解する</li> <li>【自己覚知、利用者及び家族理解、環境理解及び設定、個別支援計画、地域の繋がり（ミクロ「例:個」、メゾ「例:集団」、マクロ「例:社会」）】</li> <li>・対象者(児)を中心としたアプローチ（エンパワメント、エコシステム等）について理解する</li> <li>・多(他)職種連携、チームワークについて理解する</li> <li>・保育者として、利用者(児)の家族とどのように関るか理解する</li> <li>・保育士に求められる資質・能力・技術を振り返り、自己の課題を明らかにする</li> </ul> など

授業修了時の達成目標

〔保育実習Ⅱ〕

- ①保育所(園)の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。
- ②子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。
- ③今まで学んだ教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育及び子育て支援について総合的に理解する。
- ④保育の計画、実践、観察、記録について実践し、理解ができる。
- ⑤保育者の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつける。
- ⑥保育者としての自己の課題を明確化する。

〔保育実習さん〕

「保育実習Ⅲ」では保育所または保育園以外の社会福祉施設において、関連科目および保育実習Ⅰで得られた知識や技術を踏まえ、より高い専門性を身につけ、利用者(児)の「最善の利益」をより具体的に考察し、実践（配慮・対応等）できる者を目指す。

教科書・教材	評価基準	評価率
※テキストこうにゆうなし 新・基本保育シリーズ 保育実習 (中央法規出版)	実習	100.0%

科目名	保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	担当教員	比嘉大輔・大城克也
科目コード	330014	授業形態	演習
単位数	2単位	必修・選択	必修
コマ数	20コマ	時間数	30時間

授業概要 (スクーリング)

〔保育実習指導Ⅱ 前半〕

1.保育実習に向けての準備や心得構え

- ①実習時の心得の確認。
- ②保育者としての態度、資質について。
- ③職員、園児、保護者、家族に対する態度やマナー。
- ④オリエンテーション、ボランティア体験の目的、内容。

2.保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの違い

- ①保育所(園)の機能の理解。
- ②子育て支援について。
- ③地域連携について。

3.実習日誌作成

- ①日誌記入の理解。応用。

4.指導案作成

- ①作成の方法。理解。応用。

5.実習までの学習課題の明確化・自己学習計画

6.模擬保育

- ①絵本、紙芝居の選び方、読み方指導。
- ② デイリープログラムの理解。(ロールプレイ)
- ③ 児童文化財作り、演習の方法。

〔保育実習指導Ⅱ 後半〕

1.振り返りと評価

- ①これまでに学んだ理論や技術を、実践に活かすことが出来たか。

事前学習から実習を終えての振り返り。

(ア)心構えと態度、マナー (イ)遊びの指導(年齢と発達段階、障がいの特徴などを踏まえて)

(ウ)園児、保護者、職員、家族、職員とのかかわり。(エ)指導案、実践内容 (オ)実習日誌の記録

- ②実習先の評価と自己評価の違いを検討し、客観的に自分自身を分析する。

## 2.課題設定と資質強化

①自己の課題を設定し、次につなげ、資質強化を図る。

保育者とは何か。保育者としての役割とは何か。自分に何が出来るのか。どのような保育者になりたいかをまとめる。

## 3.発表 まとめ

それぞれの振り返りを発表。

異なる実習先の共通理解。シェア。

## 4.お礼状作成について

### [保育実習指導Ⅲ]

※「保育実習Ⅲ事前指導」は、「保育実習Ⅲ」を予定している学生を対象にスクーリングとして開講される。

※「保育実習Ⅲ」を履修するためには、必ず「保育実習Ⅲ事前指導」を履修しなければならない。

※「保育実習Ⅲ」中に記録する『実習日誌』は自己管理し、実習先へ提出すると同時に各自でコピーを残しておくこと（「保育実習Ⅲ事後指導」で行われる実習報告会で有効的であるため：実習のまとめ）

※「保育実習Ⅲ」修了後は、必ず「保育実習Ⅲ事後指導」を履修しなければならない。

### <保育実習事前指導Ⅲ（2日間）の授業内容>

○実習先の概要等について調べる

○実習先での活動（特に余暇活動）において実習生が提供できるネタを考え、発表する

○実習先で必要なスキル等（車いす利用、ガイドヘルプ、食事介助含む）について体得する

⇒「保育実習Ⅲ事前指導」の2日目にて食事介助を行うため、以下を準備すること

- ・学生自身が食べるモノ（プリン or ゼリー or ヨーグルト）1個
- ・学生自身が食べるために使うスプーン（金属 or プラスチック）
- ・タオル（手ぬぐい：長さのあるもの）
- ・イヤホン

### <保育実習事後指導Ⅲ（2日間）の授業内容>

○実習先で実践した活動（特に余暇活動）について、まとめ、報告書作成、プレゼンテーション資料を作成する

○「実践報告会」を実施する

## 授業修了時の達成目標

### 〔保育実習指導Ⅱ 事前〕

保育実習Ⅰを通して得た知識、技術を統合し、さらにレベルアップした実習を行うことが出来るようにする。

実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、高度な保育実践力を培う。

実習日誌や指導案作成方法の理解をさらに深めると共に保育スキルの演習を行う。

### 〔保育実習指導Ⅱ 事後〕

自己の実習過程を振り返り、学習の成果を確かなものにし、保育者としての自覚を持つ。

評価から客観的に自分自身を分析した上で、自己の課題を設定し、次の学習へとつなげる

### 〔保育実習指導Ⅲ〕

「保育実習Ⅲ」の目的と実習修了時の達成目標を理解する。

教科書・教材	評価基準	評価率
※購入テキストなし 新・基本保育シリーズ 保育実習 (中央法規出版)	スクーリング	100.0%